

授業科目 高次脳機能評価学実習

【担当教員名】 能登 真一	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G I O】
失語、失行、失認半側空間無視などの高次脳機能障害に関して、個々の症状や定義を把握するとともにそれらを検出するための評価方法を学習し、評価バッテリーのいくつかを実際に行いながら身につける。

【行動目標：S B O】

1. 高次脳機能障害の個々の症状の定義を述べることができる。
2. 個々の症状を具体的に説明することができる。
3. 個々の症状を検出するための検査方法を挙げることができる。
4. 検査法のいくつかを実施できる。
5. 様々な評価結果をまとめることができる。
6. 対象者の高次脳機能障害の全体像を把握し、評価計画を立てることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	失語	1, 2	講義
2	失語の評価方法	3, 4	講義・演習
3	失行	1, 2	講義
4	失行の評価方法	3, 4	講義・演習
5	半側空間無視	1, 2	講義
6	半側空間無視の評価方法	3, 4	講義・演習
7	失認	1, 2	講義
8	失認の評価方法	3, 4	講義・演習
9	前頭葉症候群	1, 2	講義
10	前頭葉症候群の評価方法	3, 4	講義・演習
11	認知症	1, 2	講義
12	認知症の評価方法	3, 4	講義・演習
13	全体像の把握と評価計画の立案	5, 6	講義・演習
14	全体像の把握と評価計画の立案	5, 6	講義・演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	高次脳機能障害学	石合純夫	医歯薬出版	2003年・4200円
参考書	神経心理学入門	山鳥 重	医学書院	1985年・6400円
	高次脳機能障害マエストロシリーズ③ リハビリテーション評価	鈴木孝治他編	医歯薬出版	2006年・2600円
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
小テスト・・・・・・20％ 期末試験・・・・・・80％	